

# 必要なものは道具よりも 優れた技術と豊かな想像力

## 硬い金属板を紙のように切り、折る曲げる

金属板を切ったり曲げたりして加工することを板金加工といい、自動車、建築物、工場施設などさまざまな分野でおこなわれています。愛知県板金工業組合の組合員は建築板金を中心に工場板金、ダクト板金などに携わっています。建築板金は屋根、雨樋、外壁工事が中心です。日本では神社仏閣の屋根や吊り灯籠の加工から発達したといわれています。

昭和40年頃まで屋根工事の代金請求書に、<sup>かざり</sup>銑工<sup>かざり</sup>代金と書かれ、銑職人と呼ばれることがあったそうです。銅板は防水や腐蝕に強く、しかも加工しやすいため、実用面と共に装飾的な意味合いも強く持っていたようです。いまでは使用目的によって使われる金属板にはさまざまな種類のものがあります。よく使われているのがアルミニウムと亜鉛の合金をメッキしたガルバリウム鋼板です。防水、防熱、腐食に強いという特性がありますが、剛性が強く、銅板に比べると加工が難しくなります。そんな鋼板でも、ベテランの職人は紙を切るようにハサミを使って直線や曲線を自在に切り、さらに「つかみ」という道具を使い、折り鶴さえも作ります。



## 時代に対応できる技術と仕事

かつては畳1枚分ほどの大きさの金属板を切って、曲げ、たたいて、工事現場で必要な



材料をつくりました。板金加工に必要な基本的な道具はハサミ、ハンマー、つかみ、拍子木などで、それほど複雑なものはありません。定規や当て木などを使うことなく、0.1ミリ程の精度で金属を切ることもできます。

いまは工場で加工されたものを図面に合わせて組み立てる仕事が増えていますが、部材が足りなかったり、図面通りに使えないこともあります。そんな時でも、技術さえあれば、身近にあるものを使い即座に必要な部材をつくりあげることが可能です。大切なのは技術と同時に豊かな創造力です。その一方で素材は変化し、屋根に太陽光発電のパネルを取り付ける建築物も増えていきます。

組合は技術の習得はもちろん、時代の変化に対応して新しい仕事を受注できるよう、各種の講習会を開催しています。

### DATA ■愛知県板金工業組合

所在地：昭和区北山町3-8-6

- ・昭和13年：名古屋板金工業組合が発足
- ・昭和25年：愛知県板金工業組合連合会に変更
- ・昭和36年：日雇労働者保険名古屋板金工保組合発足。
- ・昭和40年：法に基づく愛知県板金工業組合を設立。
- ・昭和57年：板金会館完成